

10月ゼミ宿題回答の手引き

1. 10月ゼミ宿題の主旨説明

10月ゼミにおける宿題の主旨は、どのようなものか。これを問い毎に分けて説明すると、次のようになる。

(1) 問1の主旨

問1の主旨は、論文において文章を書くとはどのようなことか、体感的にもつかむことにある。そこで、このイメージや作業の全体像を訊いている。

論文において文章を書くとは、端的にいえば、調べてわかったことを文章のかたちに置き換えることである。それは論文づくりのプロセスの中で一つ一つ行わねばならない。このことは、物事を調べることから、構成やテーマの検討、論証、評価という論文づくりのプロセスのすべてにおいて実行される。この点で、論文において文章を書くとは、論文をただ専門的でむずかしげな作品と受けとめる場合にありがちな理解とは違ってくる。それは、単に知っていることや知識を述べればよいというものではない。

たとえば、テーマに関連する一つ概念を説明する場合で考えてみよう。そこでは、間に合わせの定義を借りてくるだけで話は終わらない。そもそも知っているだけの定義や知識レベルの定義では、自分のテーマに関する重要概念の説明力が十分でないからである。そうすると、テーマに関連する一つ概念を説明するだけでも、次のようなことを行う必要がある。つまり、その概念をあらわそうとする用語の意味範囲を明確にし、どれだけわかりやすくその意味内容を伝えられるか、議論の全体の展開の中でその用語をそこで使用することに十分な意味があるか、などについて吟味し検討することである。

論文において文章を書くとは、論文づくりのプロセス全般においてこうしたことを行うことに他ならない。そうであれば、実際に文章を書く前にやることがいかに多いかよくわかる。調べて分析し、整理する。そこでわかったこと、明確になったことを文章のかたちに置き換える。これが論文において文章を書くということである。

(2) 問2の主旨

問2の主旨は、論文とは何かを踏まえた上で、論文において文章を書く上での基本的な留意点を問うものである。このため、論文づくりに焦点をあてるとき、文章を書く上での一般的な注意事項の中でもとくに何が大事になるか、理由を付して述べよという。

(3) 問3の主旨

問3の主旨は、論文の文章を書く上でどのような訓練をすると、書く力が着実に上達するか問う問題である。

2. 10月宿題の背景からの主旨説明

2012年度のゼミ宿題は、論文づくりのステップあるいはプロセスに沿った内容にしてきた。これにより、ゼミ宿題をこなす中で、ゼミ生の論文づくりの力が自ずとつくことを

目指した。そこで、そうした意図がどこまで達成されたかをみるため、過去の宿題テーマについて振り返っておこう。なお、ここでは論文づくりに関して基礎知識を与え、導入的な内容となる4月ゼミ宿題はひとまず措くことにする。そうすると、5月ゼミ以降の宿題テーマは次のとおりである。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ①調べる方法とその意味 | 5月宿題 |
| ②構成をどう行うか | 6月宿題 |
| ③テーマのとらえ方 | 7月宿題 |
| ④論証とは何か、論証をどう行うか | 9月宿題 |
| ⑤論文で文章を書くとはどのようなことか | 10月宿題 |
| ⑥論文の評価をどう行うか、自己評価、他者評価の方法 | 11月宿題予定 |

10月ゼミ宿題は、こうした流れの中にあるテーマである。ゼミ生は、このことをもう一度よく振り返って、宿題の回答にあたってほしい。つまり、論文において文章が書けるとは、文章一般でいう書く力だけでは十分でない。論文づくりのプロセス全般に則った書く力が用意されていないといけない。そこではむしろ文章一般に通じる書く力を必要とする。しかし、それだけでなく、論文という形式により言い表したいことを的確に表現できる文章の力がもとめられる。この点をよく理解しなければならない。

3. 対象者

今回の宿題回答の主対象者は、M2、M1、学部生とする。その他のゼミ参加者や修了生の回答参加は、むしろ歓迎される。

4. 提出方法

宿題は、メーリングリストにより提出する。ワードファイルである。
ファイル名は「2012年10月ゼミ宿題（提出者の名前）」にて統一する。

5. 提出期限

10月9日（火）